

第3章 田原市の自然環境及び緑の将来像

1. 計画の基本理念

課題の整理結果を踏まえ、自然環境を保全する（まもる）、身近な緑の創出や緑の質や量の向上（つくる、はぐくむ）、自然環境や利用を有機的にネットワークし（つなぐ）といった視点を持って、田原市が目指す「うるおいと活力のあるガーデンシティ」の実現を図るため、以下の基本理念をもって計画を進める。



みんなでももり、つくり、はぐくむ 豊かな自然のある暮らし
ガーデンシティ たはら

2. 基本方針

基本理念に則り、本計画の基本方針については、「たはらの骨格となる自然をまもる」、「たはらしらしい身近な緑をつくる」、「たはらの豊かなくらしは市民がはぐくむ」とし、その方針に沿った施策の展開を図る。

「たはらの骨格となる自然をまもる」については、自然環境などの緑を保全し、それを周囲の自然環境や緑とつなげることで、より緑の機能の高い緑を目指す。

「たはらしらしい身近な緑をつくる」については、身近な緑の創出や緑の質や量の向上を行い、それを周囲の自然環境や緑とつなげることで、より緑の機能の高い緑を目指す。

「たはらの豊かなくらしは市民がはぐくむ」については、市民活動の継続・活性化による身近な緑の創出や緑の質や量の向上を行い、それを周囲の自然環境や緑とつなげることで、より緑の機能の高い緑を目指す。また、市民活動のつながりの輪を広げていく。

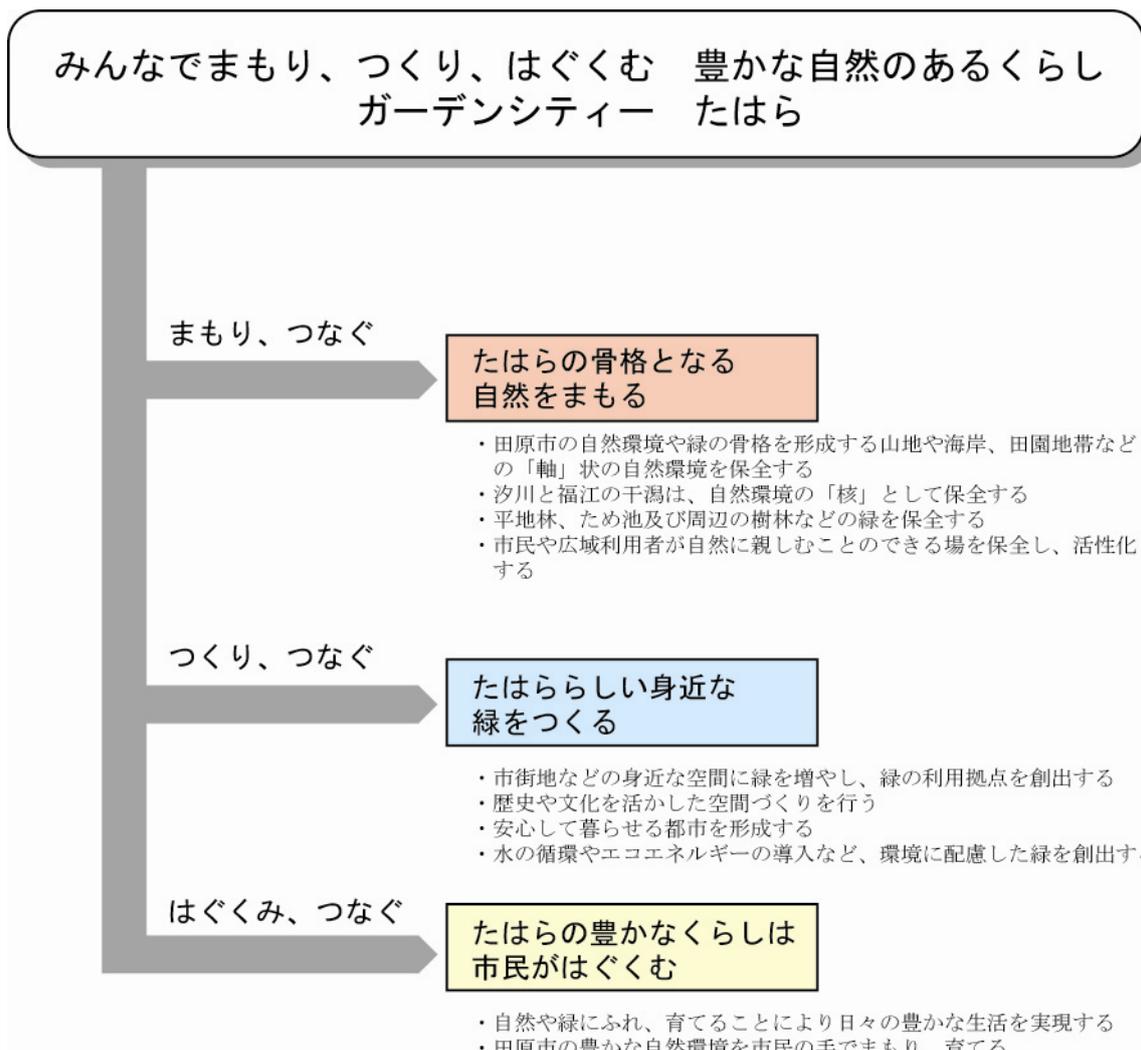


図 3-2-1：基本方針模式図

3. 緑の将来像

3-1. 緑の将来像の基本的な考え方

田原市の自然環境概況については以下に示すとおりである。

●半島をとりまく「海」

半島である田原市は、「海」に囲まれており、内陸部の環境は常に「海」とかかわっている。防風林緑地により潮風や災害から守られ、広大な砂浜により海の水質が浄化され、そうして形成された海的环境は、多様な生き物をはぐくむ母体となっている。

●半島の基盤となる「田園」

環境保全型農業を推進している田原市の「田園」は、「山」と「海」をつなぐ大きな基盤（エコトーン）を形成している。

「山」から「海」へ水を循環させ、生き物をはぐくむ「田園」基盤は、人々の生活をささえ、豊かな自然環境を向上させる。

また、豊川用水とその水源である東三河の水源林は「田園」になくってはならない大きな水循環として重要な役割を担っている。

●半島の背骨となる「山」

半島の中心にはしる「山」は田原市の貴重な緑資源であり水源地である。

雨が森林の土壌にしみこみ地下水となって、「田園」「海」に浄化された水を送り、豊かな自然環境を向上させる。

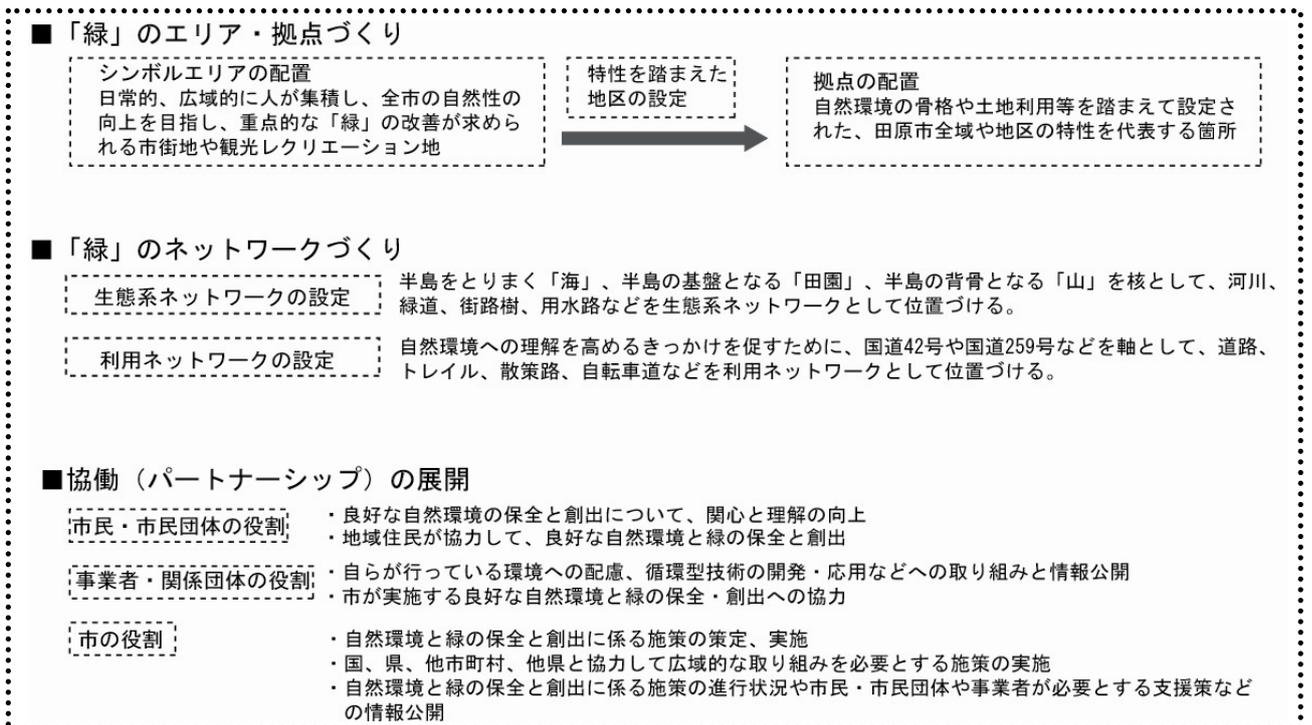
また、動物の生息地、利用軸としても重要な役割を担っている。

また、田原市は総合計画の将来都市像において、「うるおいと活力のあるガーデンシティ」を掲げ、さらに「緑」に関する「総合戦略」として「地域特性を活かした美しく快適なまち」を掲げている。これらの実現を目指して、田原市のシンボル公園ネットワーク計画の基本理念である「みんなでまもり、つくり、はぐくむ 豊かな自然のあるくらし ガーデンシティ たはら」を実践し、「山」と「海」をその間に存在する「田園」によってつなげることで全市の自然環境の質を向上させることとする。

3-2. 緑の将来像

「山」と「海」を「田園」によってつなげるイメージについては以下に示すとおりである。

特に緑が少なく質・量共に改善が求められる市街地や主要な観光地として田原、赤羽根、福江、伊良湖の4箇所を「シンボルエリア」として位置づけ、さらに自然環境の骨格や土地利用等を踏まえて設定された、山や緑地などの田原市全域や地区の特性を代表する箇所を「拠点」と位置づける。これらのシンボルエリア、拠点を中心として「まもり」、「つくる」「はぐくむ」施策を展開し、さらにシンボルエリアを中心として、拠点を緑のネットワークでつなげる。その緑のネットワークについては、河川、緑道、街路樹、用水路など動物の移動経路となる「生態系ネットワーク」、道路、トレイル、散策路、自転車道など日常利用者、広域利用者が移動路として利用する「利用ネットワーク」の2種類のネットワークによりつなげる。



将来像を実現し、田原市の緑の有する環境保全、景観形成、レクリエーション・観光、防災の機能をさらに高め、地域の特色をより強めることで、田原市民や観光客などの広域利用者はもとより、多様な生育、生息する動植物などとも共存する、うるおいと活力のある快適で過ごしやすい田原市となり、「ガーデンシティ」としての質の向上を目指す。

図 3-3-1 概念図

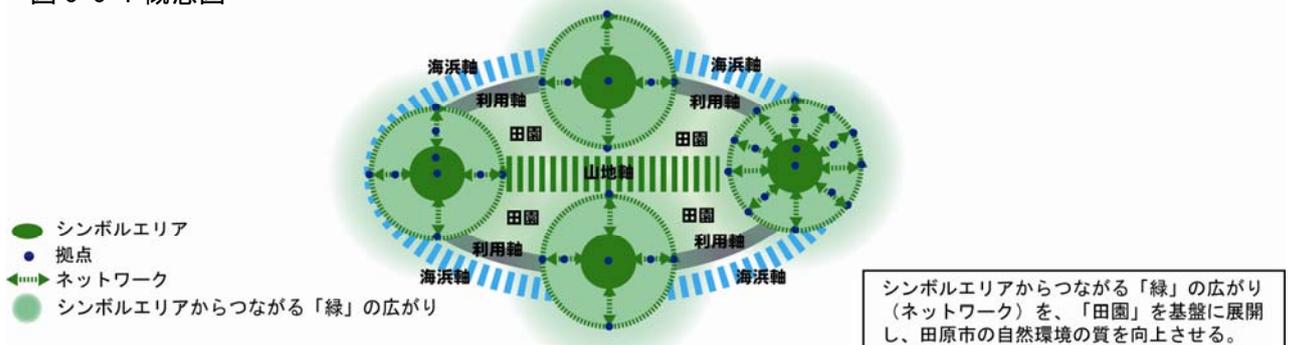


図 3-3-2 自然環境及び緑の将来像 フローチャート

●田原市総合計画「将来都市像」と「緑」に関する「総合戦略」

将来都市像 **うるおいと活力のあるガーデンシティ**
 「緑」に関する「総合戦略」 **地域特性を活かした美しく快適なまち**

●田原市の自然環境の概況

半島をとりまく「海」

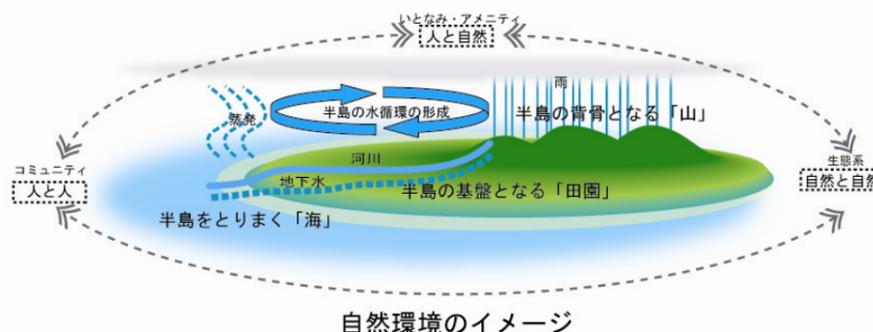
田原市は半島に位置し、「海」に囲まれており、内陸部の環境は常に「海」とかかわっている。海岸斜面林や防風林により潮風や災害からまもられ、広大な砂浜により海の水質が浄化され、そうして形成された海の環境は、多様な生き物をはぐくむ母体となっている。

半島の基盤となる「田園」

環境保全型農業を推進している田原市の「田園」は、「山」と「海」をつなぐ大きな基盤（エコトーン）を形成している。「山」から「海」へ水を循環させ、生き物をはぐくむ「田園」基盤は、人々の生活をささえ、豊かな自然環境を向上させる。また、豊川用水とその水源である東三河の水源林は「田園」になくはならない大きな水循環として重要な役割を担っている。

半島の背骨となる「山」

半島の中心にはしる「山」は田原市の貴重な緑資源であり水源地である。雨が森林の土壌にしみこみ地下水となって、「田園」「海」に浄化された水を送り、豊かな自然環境を向上させる。また、動物の生息地、移動軸としても重要な役割を担っている。



山と海を「田園」によってつなげることで全市の自然環境の質を向上する

●田原市シンボル公園ネットワーク計画「基本理念」

みんなでももり、つくり、はぐくむ
豊かな自然のある暮らし ガーデンシティ たはら

●田原市シンボル公園ネットワーク計画の基本的な考え方及び将来像

